

平成27年度 防災教育キャンプ

すべての子どもが社会に出て自立して
生きていく力をつけることができる教育の確立

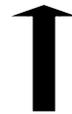
1 現在地と目的地

・「地域の方々を守る存在」

目的地



文部科学省委託事業
3泊4日の防災教育キャンプ



・「地域の方々から守られる存在」

現在地



2 事前学習・事前協議

気仙沼市立階上中学校 視察研修(先進校に学ぶ)

平成27年6月4日～6日

生徒会長

生徒会副会長

生徒会担当教諭



鹿北中生徒

階上中生徒



震災風化させない!

気仙沼訪問で感じたこと

あらためて東日本大震災が人々の生活を根底から破壊したことを実感した。

一番驚いたことは、中学生が地域の防災リーダーとして、人々から信頼される存在であること、何かあれば中学生が率先して、地域の方々を守ることができることなどであった。



2 防災教育キャンプ 平成27年8月2日～5日(3泊4日)

鹿北地域に降った大雨による早期避難を想定

中学校に避難所を開設し、ライフライン寸断から配給開始、ライフライン復旧までを3泊4日で体験する。

1日目 ライフラインの寸断

2日目 配給開始

ライフライン復旧

3日目 様々な共助活動

4日目 日常生活への復帰

多くの方々の協力を得ながら貴重な体験をさせていただきました。



自助〈自分の身を、自分の努力で守る〉

共助〈地域や近隣の人が互いに協力し合う〉

公助〈国や都道府県、消防、自衛隊による救助・支援〉

➡ 3泊4日、22の活動を通して
延べ200人以上の共助・公助

体験活動



バケツリレー



電気・ガス・水道×



段ボール居住空間



地域避難訓練



地震体験



着衣泳



給水車による給水



防災マップづくり



グループワーク



提供食



地域の方々協力



仮設風呂体験(自衛隊提供)

県防災教育キャンプフォーラム



- あいさつ、声かけから防災教育が始まる。
- 学校行事の中に防災教育はある。体育大会や文化祭など、地域の方々と顔見知りになることが防災教育につながる。
- 防災教育は日常の中にある。日常的な積み重ねが顔が見える関係をつくっていく。
- 学校と地域がつながることが防災教育である。
- 防災教育は、だれがどこ住んでいるのかを知ることから始まる。

まとめ

3泊4日の防災教育を経験して、過酷な環境の中でも、

「人にやさしい」、「わがママを言わない」、「自分だけでなく、相手のことを考えられる」、そんな一人ひとりに成長していくことの大切さを確認できました。